令和７年度第２回みんなで支える森林づくり県民会議　現地視察　概要

１　**開催日時**　　令和７年９月５日　10 時～13 時 45 分

２　**出席者**

（１）構成員（７名）

上原構成員、嶋村構成員、寺嶋構成員、中村構成員、三木構成員、村松構成員、山岸構成員

（２）事務局

千代林務部次長、森林政策課長、信州の木活用課長、県産材利用推進室長、
森林づくり推進課長、他関係職員

３　**視察先及び概要**

第４期森林づくり県民税（令和５年～９年度）で新たに実施している「再造林の加速化」に取り組む現場と、地域材の活用の現場の２つの現場を視察。

なお、地域材の活用の現場については、荒天により室内において資料説明。

（１）　佐久市協和（主伐・再造林実施現場）【事業主体】佐久森林組合

○　Ｒ５に主伐（4.29ha）、Ｒ６～Ｒ７に地拵え・植栽（カラマツ 2,000 本/ha）を実施した林分とH28 に主伐（2.5ha）、H29～H30 に地拵え・植栽、Ｒ１～Ｒ３に下刈りを実施した林分が隣接

○　Ｒ５に主伐した林分では既存の道沿い、なだらかな傾斜である等比較的好条件な現場であるものの、地拵え、植栽、下刈り（１～３回）までの初期保育経費が立木販売価格を上回る見込みであり、森林税で補助することで主伐に転換することができている。

○　H28 に主伐した林分ではつるや不要木が発生してきており、今後２～３年後にはつる切りや除伐等の施業が必要となる見込みである。

Ｒ5 主伐現場

H28 主伐現場

調査の様子

（２） 立科町町営住宅（地域材活用の取組み）　【事業主体】立科町

○　立科町では移住定住促進住宅を 10 棟建設中であり、これに利用する用材を、町有林のカラマツを皆伐して調達（全利用木材の 54%を供給)。不足分については、県産・国産のカラマツを利用

○　材の調達にあたっては、令和５年度に 73 年生のカラマツを皆伐。森林税を活用し、令和６年度にカラマツを植栽

○　伐採、製材、建築まで県内の事業者が実施

○　令和５年６月には信州ウッドコーディネーターの派遣を依頼

○　芯部を除外した木取りを行い、強度が強くねじれの少ないカラマツ構造材を利用した

町営住宅完成イメージ
（出展：立科町資料）

説明の様子
（荒天のため、室内で実施）